



日産化学株式会社

2024年3月期 第3四半期決算説明電話会議

説明者

取締役 専務執行役員 CFO 大門秀樹

2024年2月9日

大門：日産化学の大門でございます。本日はご多忙のところ、ご参加いただきましてありがとうございます。それでは、早速ご説明に入ります。

2023年度3Q決算サマリー



3Q	前年同期比	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は、1億円減収(-0%)■ 営業利益は、13億円減益(-12%)■ 純利益は、6億円減益(-8%)
1-3Q 累計※1	前年同期比	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は、39億円減収(-2%)■ 営業利益は、54億円減益(-14%)■ 純利益は、48億円減益(-16%)
※1 以後、1-3Qと記載		
3Q	業績予想比 (2023年11月発表予想との比較)	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は、16億円上ぶれ■ 営業利益は、14億円上ぶれ■ 純利益は、3億円上ぶれ
株主還元の状態		<ul style="list-style-type: none">■ 中間配当70円(前年比:据え置き)■ 自己株式取得 12月15日発表の追加50億円は取得完了済み(860千株) 上期実施分も含め合計100億円完了(1,665千株)■ 総還元性向予想85%

■ 通期業績予想は据え置き(2023年度通期営業利益:486億円)

3Q実績は上ぶれたものの、現時点の4Q見通しを踏まえ、通期業績予想は据え置き
4Qは、現時点で化学品及びディスプレイで一定の下ぶれが発生する可能性あり

| 4

資料の4ページでございます。23年度3Q決算サマリーということで、3Qの前年同期比で申し上げますと、売上高は1億円の減収、営業利益は13億円の減益でマイナス12%、純利益は6億円の減益でございました。

23年度1-3Q累計、9カ月分の前年同期比につきましては、売上高は39億円の減収、営業利益は54億円の減益でマイナス14%、純利益は48億円の減益でございました。

23年度3Qの業績予想比、こちらは11月に発表いたしました予想値との比較になりまして、売上高は16億円の増、営業利益は14億円の増、純利益は3億円の増という結果となっております。

株主還元の状態につきまして、既に実施済みの中間配当は70円と前年から据え置いております。また、自己株式取得につきましては、昨年12月15日に発表いたしました50億円の取得は、昨日2月8日のリリースのとおり完了しております。こちらは上期実施分と合わせまして合計100億

円、166万5千株が現時点までの自己株取得の状況でございます。総還元性向に直しますと、予想値では85%となります。

最後に、今回の通期業績予想につきましては、昨年11月に発表いたしました予想値から変更なしということで据え置きとさせていただいております。23年度につきましては、営業利益、連結ベースでは486億円の業績予想値を変更いたしません。

青い字で記載しております通り、3Q実績は上ぶれましたが、現時点の4Q見通しを踏まえまして、据え置きといたします。4Q見通しにつきましては、現時点で化学品およびディスプレイで一定の下ぶれが発生する可能性があるということが背景でございます。

化学品につきましては、能登半島地震の影響により1月5日から停止していましたが富山工場に関して、今週7日からアンモニアの製造を再開しております。こちらの影響金額は、会社全体に対しては軽微ではございますが、業績予想には織り込んでいないということから、4Qでは予想比に対して下ぶれの要因となります。

またディスプレイにつきましては、一部4Qから3Qへの前倒し出荷の影響や、テレビ等パネルメーカーにおける稼働調整もございまして、通期業績予想を据え置くということでございます。

2023年度3Q決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	1,095	497	1,592	1,057	496	1,553	-38 (-4%)	-1 (0%)	-39 (-2%)
営業利益	282	106	388	241	93	334	-41 (-14%)	-13 (-12%)	-54 (-14%)
営業外損益	38	-13	25	21	-5	16	-17	+8	-9
為替差損益	30	-21	9	19	-8	11	-11	+13	+2
経常利益	320	93	413	262	88	350	-58 (-18%)	-5 (-5%)	-63 (-15%)
特別損益	0	0	0	6	0	6	+6	0	+6
純利益 ^{※1}	237	71	308	195	65	260	-42 (-18%)	-6 (-8%)	-48 (-16%)
EBITDA ^{※2}	333	135	468	300	129	429	-33	-6	-39
EPS(円/株)	167.74	50.25	217.99	139.55	46.47	186.02	-28.19	-3.78	-31.97
配当(円/株)	70	-	70	70	-	70	0	-	0
配当総額	99	-	99	98	-	98	-1	-	-1
売上高営業利益率	25.7%	21.4%	24.4%	22.8%	18.8%	21.5%	-2.9pt	-2.6pt	-2.9pt
為替レート(円/ドル)	134	141	137	141	148	143	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	112	100	108	83	91	86	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 5

具体的な数字は5ページでございます。こちらは左側に昨年度の上期、3Q、それから1-3Q累計の実績、真ん中に今期の実績、一番右は前年同期比ということでございます。

23年度3Qにつきましては、売上高は496億円、営業利益は93億円、こちらに営業外損益の為替差損マイナス8億円等を加えまして、経常利益は88億円、純利益は65億円でございます。

為替レートにつきましては、23年度3Q実績は148円でございます。昨年3Qと比べますと7円ほど円安になっております。一方、原油(JCC)につきましては、23年度3Q実績はバレル当たり91ドルでございますが、天然ガスにつきましても、前年より価格が下がっており、原燃料安のプラスの効果が出ているということになります。

2023年度3Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2023年度 予想 (2023年11月発表)		2023年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	480	1,537	496	1,553	+16
営業利益	79	320	93	334	+14
営業外損益	2	23	-5	16	-7
為替差損益	0	19	-8	11	-8
経常利益	81	343	88	350	+7
特別損益	0	6	0	6	0
純利益 ^{※1}	62	257	65	260	+3
EBITDA ^{※2}	-	-	129	429	-
EPS(円/株)	-	-	46.47	186.02	-
配当(円/株)	-	70	-	70	-
配当総額	-	98	-	98	-
売上高営業利益率	16.5%	20.8%	18.8%	21.5%	-
為替レート(円/ドル)	142	141	148	143	-
原油(JCC)(^{ドル} /bbl) ^{※3}	88	85	91	86	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

次の6ページは業績予想比として、昨年11月に発表いたしました予想値との比較になります。右側の業績予想比につきましては、先ほど申し上げましたとおり、営業利益で14億円の上ぶれとなっております。

また表の下から2行目に為替レートがございます。11月に発表しました業績予想では為替レートは142円でしたが、3Q実績では148円となります。また原油(JCC)の価格も記載の通りとして、天然ガス価格につきましても昨年11月の予想からは下ぶれをしております。原油価格自体は少し上ぶれておりますけれども、天然ガスとしては下ぶれをしています。

営業利益の増減分析

	2023年度 実績	2022年度 実績	前年同期比	業績予想(2023年11月発表)	業績予想比
3Q	93 億円	106 億円	-13 億円(-12%)	79 億円	+14 億円
化学品	前年同期比 横ばい	メラミン(終売)、テビック減収も、原燃料安により利益横ばい			
	業績予想比 予想通り	環境化学品下ぶれも、原燃料安により利益予想通り			
機能性材料	前年同期比 -6億円	ディスプレイ・半導体増収も、固定費(機能性合計で実質6億円)増加により機能性合計減益			
	業績予想比 5億円上ぶれ	半導体上ぶれ、固定費(機能性合計で実質2億円)下ぶれ(増益要因)により利益上ぶれ			
農業化学品	前年同期比 -2億円	フルララネル増収も、ラウンドアップ等の減収・固定費4億円増加により減益			
	業績予想比 予想通り	グレーシア・ラウンドアップ等下ぶれも、固定費3億円下ぶれ(増益要因)により利益予想通り			
ヘルスケア	前年同期比 -1億円	ファインテック減収			
	業績予想比 2億円上ぶれ	ファインテック上ぶれ			
1-3Q	334 億円	388 億円	-54 億円(-14%) (うち半導体 -43億円)		
化学品	前年同期比 -12億円	メラミン(終売)、テビック減収により減益			
機能性材料	前年同期比 -34億円 (固定費実質24億円増加)	ディスプレイ増収増益も、半導体減収・固定費増加により機能性合計減益			
農業化学品	前年同期比 -7億円 (固定費12億円増加)	グレーシア増収も、ラウンドアップ・アルテア等の減収・固定費増加により減益			
ヘルスケア	前年同期比 +2億円	売上横ばいも、在庫変動影響(増益要因)により増益			

| 7

続きまして、7ページはセグメント別営業利益の増減分析になります。一番上段に太字で書いてございますが、営業利益としましては会社全体の3Qの前年同期比は13億円の減益、一方、業績予想比はプラス14億円ということでございます。

上から化学品でございませうけれども、前年同期比は横ばいということで、メラミン終売やテビック減収がありますが、原燃料安等により利益は横ばいです。また業績予想比につきましても、環境化学品は下ぶれがございましたが、原燃料安等で利益は予想通りとなっています。

続きまして、機能性材料でございませうが、前年同期比では6億円の減益。こちらは後で申し上げますが、ディスプレイあるいは半導体の売上が増収でございましたが、固定費、機能性合計で約6億円が増加していることから、全体としては減益。

一方、業績予想比では5億円のうぶれということでございます。半導体のうぶれに加え、固定費は業績予想比では2億円程度、機能性全体で下ぶれの増益要因ということもありまして、利益がうぶれとなりました。

続きまして、農業化学品でございますが、前年同期比では2億円の減益。こちら後ほど申し上げますが、フルララネルは増収でございましたが、ラウンドアップ等が減収、また固定費も4億円程度増加しているということが背景でございます。

業績予想比では予想通りでございますが、こちら後で申し上げますが、グレーシア、ラウンドアップ等は3Qでは売上が下ぶれておりますけれども、固定費3億円ほど下ぶれの増益要因も加わりまして、利益としては予想通りということになります。

最後に、ヘルスケアでございますが、前年同期比では1億円の減益。一方、業績予想比では2億円の上ぶれと、特にファインテックの上ぶれがございました。

下段の1-3Q累計につきましては、個別にご説明いたしません。前年同期比の減益のうち、半導体が大部分を占めるというところは前回の上期決算の説明より変わっておりません。

営業外損益・特別損益の内訳 前年同期比

(億円)

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
受取利息・配当金	4.5	3.1	7.6	4.4	3.0	7.4	-0.1	-0.1	-0.2
持分法投資損益	6.2	7.8	14.0	4.0	1.0	5.0	-2.2	-6.8	-9.0
為替差損益※1	30.2	-21.1	9.1	18.8	-8.0	10.8	-11.4	+13.1	+1.7
支払利息	-0.9	-0.8	-1.7	-2.6	-1.2	-3.8	-1.7	-0.4	-2.1
固定資産処分損他	-1.7	-2.0	-3.7	-3.6	0.3	-3.3	-1.9	+2.3	+0.4
営業外損益	38.3	-13.0	25.3	21.0	-4.9	16.1	-17.3	+8.1	-9.2
特別利益	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	6.0	+6.0	0.0	+6.0
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益※2	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	6.0	+6.0	0.0	+6.0

※1 為替レート(円/ドル): 22/3末 122.41、22/9末 144.81、22/12末 132.70、23/3末 133.54、23/9末 149.58、23/12末 141.82

※2 2023年度1-3Q実績:

特別利益+6.0億円(有価証券売却益6.0億円)

| 8

続いて8ページ、営業外損益・特別損益の内訳です。真ん中の列の23年度3Q実績で目立ちますのは為替差損益でして、先ほど申し上げました通り、マイナス8.0億円が差損として出ております。背景としましては、下の※1に為替レートを記載しておりますが、昨年9月末が149円58銭に対しまして、12月末は141円82銭ということで、約8円円高にふれたということから8億円の差損が生じたということでございます。

この数字は前年同期比で見ますと、3Qとしましてはプラス13.1億円でございます。昨年2Qから3Qにかけては、より円高が進行しておりました。一方、今期の業績予想に対しましては、期初は特に織り込んでおりませんので、こちらは下ぶれの要因になったということもでございます。特別損益につきましては、この3Qは利益、損失とも発生をしておりません。

キャッシュ・フロー

2023年度1-3Q実績のフリー・キャッシュ・フローは218億円、前年同期25億円の減少

(億円)

	2022年度 実績	2023年度 実績	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
営業活動によるキャッシュ・フロー	378	337	-41
税金等調整前純利益	413	357	-56
特別損益(マイナスは益)	0	-6	-6
減価償却費 ^{※1}	80	95	+15
法人税等の支払	-150	-155	-5
運転資金増減他	35	46	+11
投資活動によるキャッシュ・フロー	-135	-119	+16
設備投資 ^{※2}	-128	-140	-12
投資有価証券購入・売却	0	7	+7
その他	-7	14	+21
フリー・キャッシュ・フロー	243	218	-25
財務活動によるキャッシュ・フロー	-375	-259	+116
株主還元(配当)	-201	-230	-29
株主還元(自己株式取得)	-50	-58	-8
借入金増減	-123	71	+194
その他 ^{※3}	-1	-42	-41
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	1	-13
現金及び現金同等物の増減額	-118	-40	+78
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	31	0	-31
現金及び現金同等物の残高	259	257	-2

※1 のれん償却費を含む

※2 無形資産を含む

※3 2023年度1-3Q実績:自己株式取得目的の金銭の信託の設定による支出-42

| 9

続きまして9ページ、キャッシュ・フローになります。この23年度1-3Q実績のフリー・キャッシュ・フローは真ん中にございますように218億円でございます。昨年と比べますと25億円ほど減少しておりますが、引き続き200億円強のプラスのフリー・キャッシュ・フローを生み出しているということになります。

一方、財務活動のキャッシュ・フローでございますが、株主還元は昨年と比べますと80億円ほど増加をしております。こちらの要因もございまして、借入金としましてはプラス194億円を増加をしております。去年は返済をしていたわけですが、今年は借り増しをしたということになっております。最終行の現預金の残高としては、ほぼ昨年並みということで、200億円強の残高がございま

貸借対照表

(億円)

	2022年12月末	2023年3月末	2023年12月末	前期末比		2022年12月末	2023年3月末	2023年12月末	前期末比
流動資産	1,674	1,894	1,894	0	負債	604	772	883	+111
現預金	259	296	257	-39	買入債務	238	199	234	+35
売上債権	612	827	642	-185	借入金	108	273	367	+94
たな卸資産	702	647	849	+202	その他	258	300	282	-18
その他	101	124	146	+22	純資産	2,162	2,215	2,214	-1
固定資産	1,092	1,093	1,203	+110	株主資本 ^{※1}	2,025	2,088	2,061	-27
有形固定資産	620	647	756	+109	その他有価証券評価差額金	83	77	86	+9
無形固定資産	118	115	114	-1	為替換算調整勘定	20	17	33	+16
投資有価証券	296	273	275	+2	非支配株主持分	30	31	33	+2
その他	58	58	58	0	退職給付に係る調整累計額	4	2	1	-1
資産合計	2,766	2,987	3,097	+110	負債純資産合計	2,766	2,987	3,097	+110
					自己資本比率	77.1%	73.1%	70.4%	
					D/ELシオ ^{※2}	-7.5%	-1.1%	5.4%	

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2022年12月末	2023年3月末	2023年12月末	前期末比	参考
上場株式 ^{※3}	183	169	179	+10	300
(単体ベース保有銘柄数)	(29)	(26)	(26)	(0)	(55)
非上場株式	30	24	25	+1	17
関係会社株式	83	80	71	-9	68
合計	296	273	275	+2	385
純資産に占める 政策保有株式の割合 ^{※4}	9.1%	7.9%	8.3%		17.0%

※1 株主資本増減 -27 = 純利益260 - 配当その他287 ※2 D/ELシオ = (借入金 - 現預金) / 株主資本

※3 23/3末 169 + 取得0 + 売却・評価差額10 = 23/12末 179 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)

| 10

10 ページ、バランスシートでございます。左は資産内訳でして、前期末比というのが昨年度3月末との比較ということになりますが、資産合計で110億円ほど増えている。中身としては、固定資産、このプラスがほぼそのまま来ているということでございます。

一方、流動資産につきましては、たな卸資産が200億円ほど増えているということで、例年、特に農薬につきましては、この12月は3月末から9月末、それから12月末にかけて少しずつ増えていくということでございますけれども、比較的にな大きな数字になっています。

一方、売上債権につきましては185億円の減少でございます。これは売掛金の回収が進んでいるというのは例年どおりということでございます。

右は負債内訳でして、先ほど申し上げましたとおり、借入金が増えておりまして367億円、昨年度3月末との比較では90億円強増加をしているということでございます。

この結果、自己資本比率は下に書いてございますが、70.4%でございます。引き続き健全な財務体質ということが言えると思います。

また、D/E レシオでございますが、これはこの D というのは下に書いてございますが、ネットデットでございますので、借入金から現預金を引いた部分になります。この 12 月末につきましては、プラス 5.4%ということでございました。

左下に参考ということで、投資有価証券の推移を挙げております。一番下の行にございますように、純資産に占める政策保有株式の割合というのは、12 月末は 8.3%ということでございました。保有銘柄数につきましては特に減少、増減はございませんけれども、引き続き 10%以内、これを維持しているということでございます。

参考ということで、2018 年 3 月末の数字が一番右の列にございますが、そこから比べますと比率は半分ぐらいになっているということで、着実に減らしてきているというのはお分かりいただけると思います。

セグメント別 2023年度3Q決算 前年同期比



(億円)

		2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比		
		上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
化学品	売上高	198	101	299	179	96	275	-19 (-10%)	-5 (-4%)	-24 (-8%)
	営業利益	11	4	15	-1	4	3	-12 (-108%)	0 (-14%)	-12 (-81%)
機能性材料	売上高	420	206	626	405	214	619	-15 (-4%)	+8 (+4%)	-7 (-1%)
	営業利益	139	69	208	111	63	174	-28 (-20%)	-6 (-10%)	-34 (-16%)
農業化学品	売上高	357	131	488	353	132	485	-4 (-1%)	+1 (+1%)	-3 (-1%)
	営業利益	121	31	152	116	29	145	-5 (-4%)	-2 (-8%)	-7 (-4%)
ヘルスケア	売上高	32	16	48	35	13	48	+3 (+9%)	-3 (-19%)	0 (0%)
	営業利益	15	6	21	18	5	23	+3 (+24%)	-1 (-29%)	+2 (+7%)
卸売・その他・ 調整額	売上高	88	43	131	85	41	126	-3	-2	-5
	営業利益	-4	-4	-8	-3	-8	-11	+1	-4	-3
合計	売上高	1,095	497	1,592	1,057	496	1,553	-38 (-4%)	-1 (0%)	-39 (-2%)
	営業利益	282	106	388	241	93	334	-41 (-14%)	-13 (-12%)	-54 (-14%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ(旧社名：日本燐酸、硫酸の製造。2023年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp45,p46参照)

| 12

続きまして、セグメント概況に移ります。

12 ページ、ここはセグメント別ということで、数字としては後ほどご確認ください。これは前年同期比でございます。

セグメント別 2023年度3Q決算 業績予想比

(億円)

		2023年度 予想 (2023年11月発表)		2023年度 実績		業績予想比
		3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
化学品	売上高	105	284	96	275	-9
	営業利益	4	3	4	3	0
機能性材料	売上高	212	617	214	619	+2
	営業利益	58	169	63	174	+5
農業化学品	売上高	139	492	132	485	-7
	営業利益	29	145	29	145	0
ヘルスケア	売上高	11	46	13	48	+2
	営業利益	3	21	5	23	+2
卸売・その他・調整額	売上高	13	98	41	126	+28
	営業利益	-15	-18	-8	-11	+7
合計	売上高	480	1,537	496	1,553	+16
	営業利益	79	320	93	334	+14

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

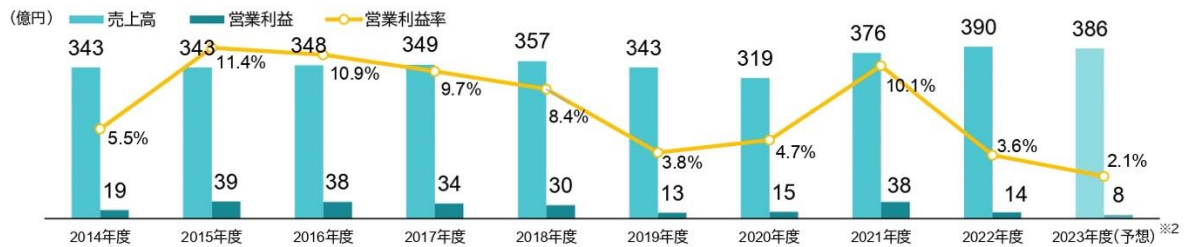
※ 卸売：日産産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ(旧社名：日本磷酸。硫酸の製造。2023年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp45,p46参照)

また 13 ページ、これは業績予想比ということでございます。ここでは特に右側の業績予想比を見ていただきますと、営業利益では機能性材料で 5 億円ほど上ぶれている。また、ヘルスケアで 2 億円、それ以外に卸売・その他・調整額でも 7 億円ほど上ぶれているということでございまして、この内訳につきましては、後ほど 46 ページにより詳細に記載がございまして、ご確認ください。

2022年度セグメント別業績



化学品セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)
 ※2 予想は2023年11月発表

まず、化学品セグメント、14ページでございます。こちらのページにつきましては、グラフも含めまして、昨年11月のご説明時と変えておりません。

- ファインケミカルは、1-3Qで18%減収、業績予想比でも下ぶれ
- 基礎化学品は、1-3Qで2%減収、業績予想比でも下ぶれ

主要製品	前年同期比		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q
テピック	-11%	-42%	下ぶれ
環境化学品	-2%	+3%	下ぶれ
ファインオキシコール	-3%	-14%	下ぶれ
ファインケミカル合計※1	-7%	-18%	下ぶれ
メラミン※2	-100%	-100%	-
尿素・アドブルー®	-1%	+13%	予想通り
高純度硫酸	+20%	-2%	上ぶれ
硝酸製品	+1%	+22%	下ぶれ
基礎化学品合計※3・4	-3% (+1%)	-2% (+11%)	下ぶれ
化学品セグメント合計※3	-4% (-2%)	-8% (0%)	下ぶれ

※1 テピック、環境化学品、ファインオキシコールの2023年度1-3Q実績ファインケミカル売上高に占める割合: 82%
 ※2 メラミンは2022年6月に生産停止、12月販売終了(p19参照、メラミン生産停止による構造改革)
 ※3 ()内伸び率はメラミンを除いた合計での伸び率
 ※4 メラミン、尿素・アドブルー®、高純度硫酸、硝酸製品の2023年度1-3Q実績基礎化学品売上高に占める割合: 48%

次の 15 ページには主要製品の売上高成長率をお示ししております。

表を見ていただきますと、冒頭の文章にございます通り、ファインケミカルは 3Q の前年同期比でマイナス 7%、こちらはテピック低調が続いていることが主な要因です。また 1-3Q ではマイナス 18%、業績予想比でも環境化学品などを中心に下ぶれをしております。

基礎化学品は 3Q の前年同期比はマイナス 3%でございます。また 1-3Q 累計ではマイナス 2%、ただしメラミンの影響を除いた数字としましては、その下の括弧内にありますようにプラス 11%になっております。業績予想比では若干の下ぶれという結果でございました。

【3Q】売上高-5億円、営業利益横ばい 【1-3Q】売上高-24億円、営業利益-12億円

(億円)

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	198	101	299	179	96	275	-19	-5	-24
ファインケミカル	77	33	110	60	30	90	-17	-3	-20
基礎化学品	121	68	189	119	66	185	-2	-2	-4
営業利益	11	4	15	-1	4	3	-12	0	-12

	【3Q】減収・減益	【1-3Q】減収・減益
ファインケミカル	テビック一般	【3Q】【1-3Q】とも需要減で減収
	テビック電材	【3Q】【1-3Q】とも減収
	環境化学品	【3Q】減収 【1-3Q】増収
	ファインオキシコール	【3Q】【1-3Q】とも減収
	【3Q】原燃料安(増益要因)	【1-3Q】原燃料高(減益要因)
	【3Q】減収・増益	【1-3Q】減収・増益
基礎化学品	メラミン	【3Q】【1-3Q】とも終売で減収(p19参照)
	尿素・アドブルー®	【3Q】横ばい 【1-3Q】増収
	高純度硫酸	【3Q】増収 【1-3Q】減収
	硝酸製品	【3Q】横ばい 【1-3Q】増収 (22年度上期硝酸プラントトラブル影響)
	【3Q】【1-3Q】ともに原燃料安(増益要因)	

16 ページは、具体的な利益も含めた数字でございます。まず、前年同期比では、左下でございますように、ファインケミカルは3Q、1-3Qとも減収減益ということでございます。

また右の基礎化学品につきましても減収はしておりますが、利益としては増益です。こちらは原燃料安の増益要因が、特に基礎化学品については効いているということが言えるかと思えます。その結果、3Qとしては売上高で5億円の減収、営業利益は横ばいということになっています。

【3Q】売上高-9億円、営業利益予想通り

(億円)

	2023年度 予想 (2023年11月発表)		2023年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	105	284	96	275	-9
ファインケミカル	37	97	30	90	-7
基礎化学品	68	187	66	185	-2
営業利益	4	3	4	3	0

【3Q】売上高下ぶれ・営業利益予想通り

ファインケミカル

- テピック一般 売上高予想通り
- テピック電材 売上高下ぶれ
- 環境化学品 数量減により売上高下ぶれ
- ファインオキシコール 売上高下ぶれ

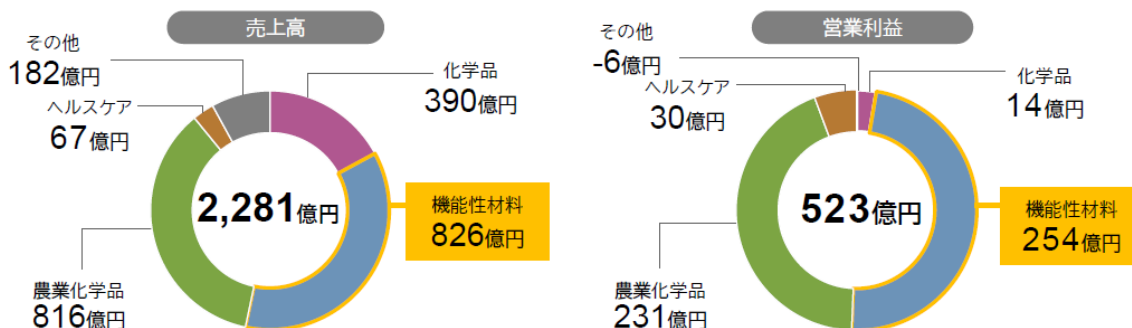
【3Q】売上高下ぶれ・営業利益予想通り

基礎化学品

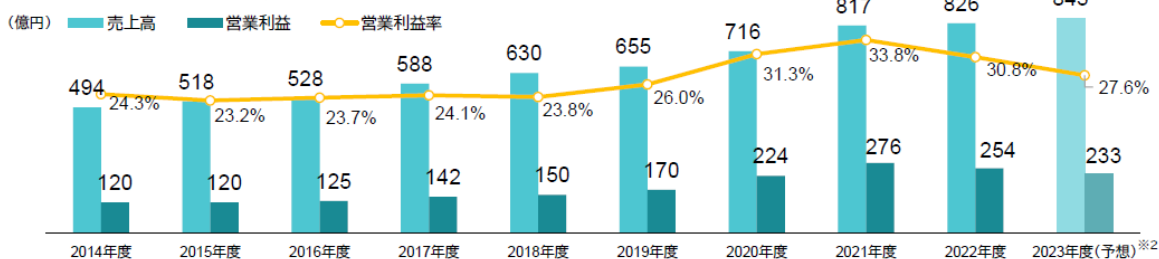
- 尿素・アドブルー® 売上高予想通り
- 高純度硫酸 売上高上ぶれ
- 硝酸製品 売上高下ぶれ
- 原燃料安(増益要因)

次の17ページ、これは業績予想比でございまして、この表のとおりでございます。売上高は9億円の下ぶれでございますが、原燃料安影響等もありまして、営業利益としましては予想どおりということになっています。

2022年度セグメント別業績



機能性材料セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)

※2 予想は2023年11月発表

参考 機能性材料R&D説明会 (2022年6月21日発表)

続きまして、20 ページは機能性材料セグメントの概況でございます。

- ディ스플레이材料は、1-3Qで+13%増収、業績予想比では予想通り
- 半導体材料は、1-3Qで-12%減収、業績予想比では上ぶれ
- 無機コロイドは、1-3Qで-6%減収、業績予想比では予想通り

主要製品	前年同期比		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q
サンエバー	+7%	+13%	予想通り
ディスプレイ材料合計	+7%	+13%	予想通り
ARC®	+3%	-14%	上ぶれ
多層材料	-7%	-19%	下ぶれ
EUV材料※1	+29%	+20%	上ぶれ
半導体材料合計	+4%	-12%	上ぶれ
スノーテックス	-5%	-4%	上ぶれ
オルガノゾル・モノマーゾル	+24%	-1%	上ぶれ
オイル&ガス材料	-70%	-31%	下ぶれ
無機コロイド合計	-5%	-6%	予想通り
機能性材料セグメント合計	+4%	-1%	上ぶれ

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSi-HMの合計

21 ページは、主要製品の売上高成長率の表になります。まずディスプレイにつきましては3Qの前年同期比はプラス7%、1-3Q累計でプラス13%、業績予想比では予想どおりということになりました。

それから半導体は3Qの前年同期比はプラス4%、1-3Q累計ではマイナス12%の減収、業績予想比では上ぶれということになっております。無機は3Qの前年同期比はマイナス5%、1-3Q累計でもマイナス6%、業績予想比では予想どおりという結果でございました。

【3Q】売上高+8億円、営業利益-6億円、固定費増加合計実質6億円

【1-3Q】売上高-7億円、営業利益-34億円、固定費増加合計実質24億円(共通費用増加1億円含む)

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	420	206	626	405	214	619	-15	+8	-7
営業利益	139	69	208	111	63	174	-28	-6	-34

ディスプレイ	【3Q】増収・減益 【1-3Q】増収・増益	
	光IPS	【3Q】【1-3Q】ともに増収 (2023年度4Qからの出荷前倒し)
	ラビングIPS	【3Q】減収 【1-3Q】増収
	VA	【3Q】横ばい 【1-3Q】増収(一部シェア拡大)
【3Q】固定費増加2億円 【1-3Q】ディスプレイ市場回復、固定費増加3億円		

半導体	【3Q】増収・減益 【1-3Q】減収・減益	
	ARC®	【3Q】増収 【1-3Q】減収
	多層材料	【3Q】【1-3Q】ともに減収
	EUV材料	【3Q】【1-3Q】ともに増収 (EUV下層膜は好調を維持し増収)
【3Q】半導体市場徐々に回復、固定費増加実質3億円 【1-3Q】上期半導体市場低調、固定費増加実質17億円(主としてNCK)		

無機コロイド	【3Q】減収・減益 【1-3Q】減収・減益	
	スノーテックス	【3Q】減収(一般用途増収、研磨剤減収) 【1-3Q】減収(一般用途横ばい、研磨剤減収)
	オルガノ・モノマーゾル	【3Q】増収 【1-3Q】横ばい
	オイル&ガス材料	【3Q】【1-3Q】ともに減収
【3Q】固定費増加1億円 【1-3Q】固定費増加3億円		

| 22

次の22ページには、より細かくブレイクダウンしております。まず、機能性材料の前年同期比でございますが、3Qの売上高はプラス8億円、営業利益はマイナス6億円で、ここは符号が反転しておりますが、固定費増加6億円が主な要因となります。

左下のディスプレイについては、3Qは増収減益となっております。減益幅は非常に少ないですが、このうち光IPSは括弧内に書いてございます通り、23年度3Qは4Qからの出荷の前倒しが一部ございました。それからラビングIPSにつきましても3Qは減収ということでございます。

次に右側の半導体については、3Qは増収減益となっております。減益はやはり固定費の増加が効いているということになりますが、EUV材料につきましても下層膜を中心に好調維持しております。3Qの前年同期比ですと、プラス29%ということになっております。

【3Q】売上高+2億円、営業利益+5億円、固定費下ぶれ合計実質2億円(増益要因)

	2023年度 予想 (2023年11月発表)		2023年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	212	617	214	619	+2
営業利益	58	169	63	174	+5

【3Q】売上高予想通り・営業利益上ぶれ

ディスプレイ	光IPS	売上高上ぶれ (2023年度4Qからの出荷前倒し)
	ラビングIPS	売上高下ぶれ
	VA	売上高下ぶれ
	固定費上ぶれ1億円	

【3Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

半導体	ARC®	売上高上ぶれ
	多層材料	売上高下ぶれ
	EUV材料	売上高上ぶれ
半導体市場徐々に回復		
固定費下ぶれ実質2億円		

【3Q】売上高予想通り・営業利益上ぶれ

無機コロイド	スノーテックス	売上高上ぶれ (一般用途上ぶれ・研磨剤予想通り)
	オルガノ・モノマーゾル	売上高上ぶれ
	オイル&ガス材料	売上高下ぶれ
	固定費下ぶれ1億円	

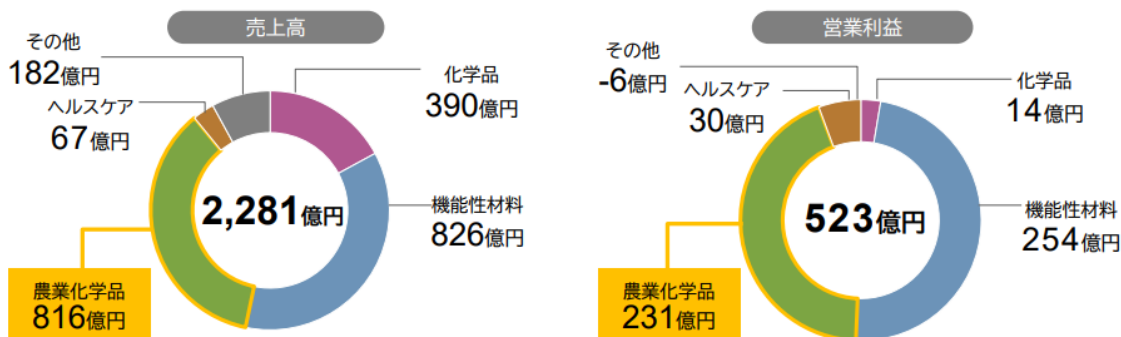
| 23

次に 23 ページでございます。業績予想比ということで、機能性全体としては売上で 2 億円の上ぶれ、営業利益では 5 億円の上ぶれということでございます。一方、固定費につきましては、実質 2 億円の下ぶれということで、この増益要因も寄与しております。

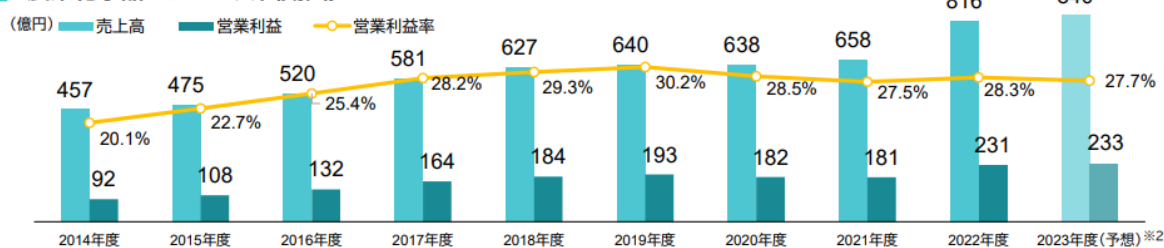
光 IPS は、左下に書いてありますとおり、4Q から 3Q への出荷の前倒しが一部ありまして、上ぶれということになっております。

一方、EUV 材料は右にございますが、ここは上ぶれということで、引き続き先端のところは好調な受注を確保しているということになります。

2022年度セグメント別業績



農業化学品セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)

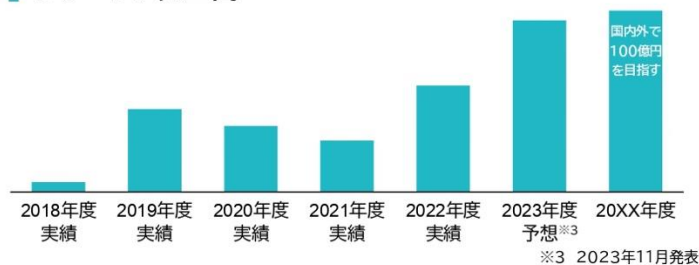
※2 予想は2023年11月発表

続いて、24 ページは農業化学品セグメントの概況でございます。

■ 1-3Qで1%減収、業績予想比でも下ぶれ

主要製品名 (農業:2022年度売上高順)	種類	前年同期比		業績予想比	
		3Q	1-3Q	3Q	
農業	ラウンドアップ ^{※1}	除草剤	-28%	-12%	下ぶれ
	アルテア	除草剤	-9%	-14%	予想通り
	タルガ	除草剤	+41%	+8%	上ぶれ
	ライメイ	殺菌剤	-33%	-45%	下ぶれ
	グレーシア	殺虫剤	-7%	+56%	下ぶれ
	ダイセン	殺菌剤	+16%	+3%	下ぶれ
	パーミット	除草剤	-63%	-6%	上ぶれ
動物薬	フルララネル	動物薬	+10%	+6%	上ぶれ
セグメント合計 ^{※2}		-	+1%	-1%	下ぶれ

■ グレーシア売上高



参考

[ラウンドアップの現状説明会資料](#) (2020年1月22日発表)
[農業化学品事業説明会資料](#) (2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2023年度1-3Q実績のラウンドアップ売上高全体の31%を占める
 ※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

25 ページは主要製品の売上高成長率でございます。最終行のセグメント合計全体を見ますと、3Qの前年同期比はプラス1%、1-3Q累計はマイナス1%でございます。

また業績予想比では下ぶれをしておりますが、ここはプラスマイナスが混在しておりまして、3Qですとラウンドアップとグレーシアのマイナスがございます。

一方、動物薬のフルララネルにつきましては、3Qの前年同期比はプラス10%、1-3Q累計ではプラス6%、業績予想比でも上ぶれという結果になっております。

【3Q】売上高+1億円、営業利益-2億円、固定費増加4億円
 【1-3Q】売上高-3億円、営業利益-7億円、固定費増加12億円

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	357	131	488	353	132	485	-4	+1	-3
営業利益	121	31	152	116	29	145	-5	-2	-7

主要製品	ラウンドアップ(除草剤)	【3Q】減収 (ML:減収、22年度は値上げ前の駆け込み需要あり、AL:増収) 【1-3Q】減収 (ML・ALともに天候不良や流通在庫影響により減収)
	アルテア(除草剤)	【3Q】減収 (国内:減収、22年度は値上げ前の駆け込み需要あり、輸出:増収) 【1-3Q】減収 (国内:減収、22年度は値上げ前の駆け込み需要あり、輸出:韓国向け減収)
	タルガ(除草剤)	【3Q】【1-3Q】ともに増収 (輸出:23年度4Qからの出荷前倒し)
	ライメイ(殺菌剤)	【3Q】【1-3Q】ともに減収 (輸出:流通在庫影響により欧州向け数量減)
	グレーシア(殺虫剤)	【3Q】減収 (国内:増収、輸出:インド向け天候不良により数量減) 【1-3Q】増収 (国内:増収、輸出:インドでの拡販)
	ダイセン(殺菌剤)	【3Q】【1-3Q】ともに増収 (輸出:韓国向け増収)
	パーミット(除草剤)	【3Q】減収 (輸出:23年度は上期に販売が偏重) 【1-3Q】減収
	フルララネル(動物薬)	【3Q】【1-3Q】ともに増収 (原薬・ロイヤリティ収入ともに増収、一部円安影響あり)

26 ページは、各主要製品売上高の前年同期比のご説明をしております。セグメント全体で、3Q の売上高は1億円の増収、営業利益は2億円の減益、固定費増加4億円がございました。

主要製品の中で、先ほど申し上げましたラウンドアップについては3Q減収でして、22年度は値上げ前の駆け込み需要がありまして、前年比では減収ということになっております。

それからライメイは3Qと1-3Q累計とも減収ということでございますが、輸出において流通在庫影響で欧州向けの数量減が起きているということがございます。

またグレーシアは国内増収ではございますが、輸出において特に3Qでインド向けが天候不良により数量減が発生しているということになっております。

最後のフルララネルにつきましては、先ほど申し上げましたとおり増収ということでした。

【3Q】売上高-7億円、営業利益予想通り、固定費下ぶれ3億円(増益要因)

(億円)

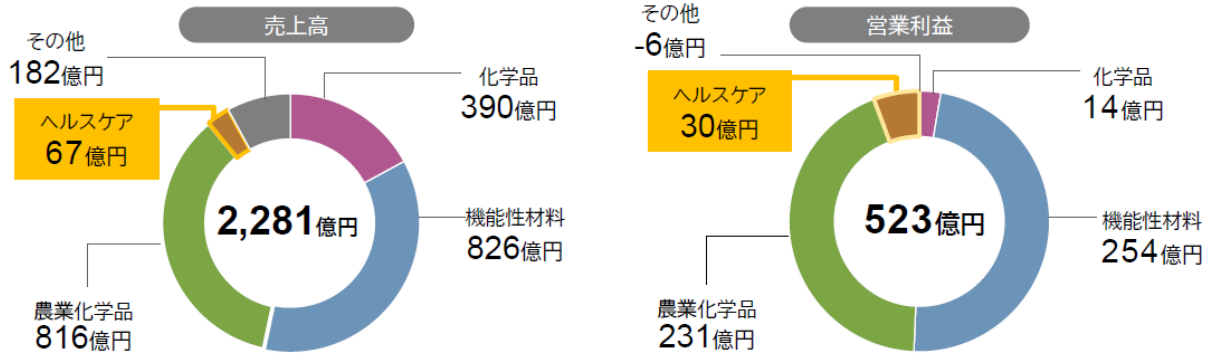
	2023年度 予想 (2023年11月発表)		2023年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	139	492	132	485	-7
営業利益	29	145	29	145	0

主要製品	説明
ラウンドアップ(除草剤)	売上高下ぶれ(ML:23年度4Qへ出荷後ろ倒し、AL:上ぶれ)
アルテア(除草剤)	売上高予想通り
タルガ(除草剤)	売上高上ぶれ(輸出:23年度4Qからの出荷前倒し)
ライメイ(殺菌剤)	売上高下ぶれ(国内:下ぶれ、輸出:上ぶれ)
グレーシア(殺虫剤)	売上高下ぶれ(輸出:23年度4Qへ出荷後ろ倒し、インド向け天候不良により数量減)
ダイセン(殺菌剤)	売上高下ぶれ
パーミット(除草剤)	売上高上ぶれ
フルララネル(動物薬)	売上高上ぶれ(原薬・ロイヤリティ収入ともに上ぶれ、一部円安影響あり)

27 ページ、ここは業績予想比でございます。全体として売上高は7億円の**下ぶれ**でございますが、固定費下ぶれの増益要因もございまして営業利益としては**予想どおり**ということになっております。

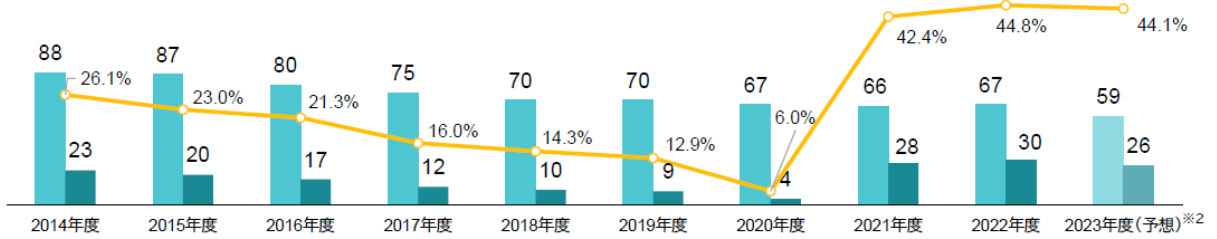
主要製品の剤別の状況につきまして記載をしておりますが、先ほど少し申し上げましたとおりとなっております。

2022年度セグメント別業績



ヘルスケアセグメント業績推移^{※1}

(億円) 売上高 営業利益 営業利益率



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014~2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p48参照)
 ※2 予想は2023年11月発表

続いて、33 ページはヘルスケアセグメントの概況でございます。

リバロ

2003年に興和から上市した高コレステロール血症治療薬。現在、世界30か国以上で販売中

売上高の推移	2020年度 ^{※2}	2021年度	2022年度	2023年度 予想 ^{※3} (2023年11月発表)
前年同期比増減率	-30%	-17%	0%	-13%
うち国内	+6%	+30%	-17%	-32%
うち海外	-35%	-28%	+7%	-7%
2012年度比増減率 ^{※1}	-73%	-78%	-78%	-81%

※1 2013年8月 国内物質特許満了。2012年度がリバロ売上高(国内外計)のピーク

※2 2020年8月 欧州で市場独占期間満了

※3 2023年11月 米国ジェネリック参入

ファインテック

課題解決型受託事業として、前臨床から商業生産まで新薬の原薬・中間体製造プロセス研究を受託
特に近年は高活性・高付加価値ジェネリック原薬を中心に新規案件獲得に注力

高付加価値ジェネリック原薬の販売状況

販売開始年度	原薬	用途
2016	マキサカルシトール	尋常性乾癬／二次性副甲状腺機能亢進症治療
2017	エルデカルシトール	骨粗しょう症治療

ファインテック売上高の推移 (2014～2023年度)

(億円)

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 予想 (2023年11月発表)
18	23	24	25	26	29	38	42	43	38

| 34

34 ページは主要製品の売上高予想でございます。リバロの2023年度予想は、前回11月の予想値より変えておらず、前年同期比のマイナス13%、特に国内で2桁マイナスと記載をしておりますが、実際の今期の着地はここまで深掘らないかもしれません。

また※3に記載しておりますが、以前から想定されていた通り、昨年11月に米国のジェネリックで参入ということがございました。

【3Q】売上高-3.0億円、営業利益-1.9億円 【1-3Q】売上高横ばい、営業利益+1.6億円

(億円)

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比		
	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q	上期	3Q	1-3Q
売上高	32.5	15.9	48.4	35.5	12.9	48.4	+3.0	-3.0	0.0
ヘルスケア	14.2	3.5	17.7	12.9	5.9	18.8	-1.3	+2.4	+1.1
ファインテック	18.3	12.4	30.7	22.6	7.0	29.6	+4.3	-5.4	-1.1
営業利益	14.6	6.6	21.2	18.1	4.7	22.8	+3.5	-1.9	+1.6
ヘルスケア	6.3	1.0	7.3	5.7	1.8	7.5	-0.6	+0.8	+0.2
ファインテック	8.3	5.6	13.9	12.4	2.9	15.3	+4.1	-2.7	+1.4

※ p12,p13,p45,p46では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

ヘルスケア	【3Q】増収・増益 【1-3Q】増収・増益
リパロ	【3Q】増収（国内・輸出とも増収） 【1-3Q】増収（国内減収、輸出増収）

ファインテック	【3Q】減収・減益 【1-3Q】減収・増益
	【3Q】【1-3Q】ともに24年度へ一部出荷後ろ倒しにより減収 【1-3Q】在庫変動影響（増益要因）

| 35

次に 35 ページは前年同期比でございます。冒頭に記載のとおり、前年同期比ですと 3Q の売上高、営業利益は減収減益でございます。特にファインテックにつきましては、24 年度へ一部出荷後ろ倒しというような少し特殊要因もございます。

【3Q】売上高+2.3億円、営業利益+1.4億円

(億円)

	2023年度 予想 (2023年11月発表)		2023年度 実績		業績予想比
	3Q	1-3Q	3Q	1-3Q	3Q
売上高	10.6	46.1	12.9	48.4	+2.3
ヘルスケア	5.8	18.7	5.9	18.8	+0.1
ファインテック	4.8	27.4	7.0	29.6	+2.2
営業利益	3.3	21.4	4.7	22.8	+1.4
ヘルスケア	2.0	7.7	1.8	7.5	-0.2
ファインテック	1.3	13.7	2.9	15.3	+1.6

※ p12,p13,p45,p46では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

ヘルスケア 【3Q】売上高上ぶれ、営業利益下ぶれ
 リバロ 売上高上ぶれ(国内上ぶれ、輸出下ぶれ)

ファインテック 【3Q】売上高・営業利益とも上ぶれ
 売上高上ぶれ

36 ページ、ここは業績予想比でして、ファインテックでは上ぶれということですが、全体としても売上、営業利益ともに業績予想比に対しましてはプラスということになっております。

私からは以上でございます。

質疑応答

<質問者 1>

Q: まず冒頭の 4 ページで、4Q が現時点で化学品とディスプレイ材料にて下ぶれリスクありと書かれています。この意味合いとしては、これによって会社全体が通期も下ぶれそうなのか、あるいは 3Q が上ぶれた分で通期は変えていないとおりでというのを確認させていただきたいです。

A: 4Q につきましては、ここに書いた化学品とディスプレイが下ぶれ得るかもしれないというのが、今の印象です。まだ 2 月の上旬ですし、1 月実績もきちんと見られておりませんけれども、そういう印象があるということで、あえて書かせていただいたということでございます。

特に 3Q で営業利益が予想比 14 億円上ぶれましたので、なぜ通期の業績予想を変えないのかというご質問もあろうかということでここに記載しております。他のセグメントにつきましては、今のところはそれほど大きな上下はないのではないかと現時点では想定しておりますが、まだ走っている最中でございますので、そのような形で今認識しているところを記載したということになります。

Q: 通期は関係なく、4Q だけの話ということですね。

A: そうです。

Q: 分かりました。次に、季節性もあるとはいえ 12 月末時点の在庫がかなり多いと思うのですが、この辺り何か今後大きな調整が必要なものはないのでしょうか。

A: ご指摘のとおり、10 ページにて先ほどご説明しましたけれども、前期末比で言えば棚卸資産は 200 億円ぐらい増えているということでございます。これは 1 年前の 12 月末と比べましても、やはり 150 億円ぐらい増えているということで、保有日数でみてもかなり上昇基調にあるというのは認識しております。

これは特に農薬で膨らんでいますが、農薬は例年 12 月から 3 月に向けて徐々に出荷が増えて、在庫を減らしていくという傾向になりますので、事業部と綿密に精査をしながら、これからその推移を見ていきます。

Q: この在庫増によって 3Q の利益が上ぶれたということはないですね。

A：在庫の部分に関して、在庫変動影響としてはこの3Qについては逆にマイナスに出ています。予想比で言えば、出荷が多く、費用サイドに出ているということになります。

Q：分かりました。最後は機能性材料のディスプレイと半導体について、2Qから3Qと3Qから4QのQoQの動きについて、定性的なご説明を頂けますか。

A：まずディスプレイにつきまして、3Qまでは緩やかな市場回復局面にありますが、3Q実績については光IPSで一部前倒し出荷の影響があり、実力よりは少し強く出ているというところがありますので、4Qでは逆にQoQで反動減があるだろうというような想定はできるかなと思います。

また、テレビ等につきましても、現在は生産調整に入っているようなので、ラビングIPSやVAのモードについては11月に発表した予想から、やはり少し下ぶれてきているのではないかなという想定でございます。

一方で、半導体については少しずつ回復局面に来ているということになります。2Qから3Qや3Qから4QのQoQでも、1桁から2桁のパーセンテージですけれども、期を追うごとに増収になっているということでございます。特にEUVは非常に堅調に推移していますが、この傾向がこの4Qも続いていくのではないかなと思っています。

<質問者2>

Q：化学品の能登半島地震の影響に関して、富山工場のアンモニアプラントがほぼ1カ月間停止しました。アンモニアは製造フローの上流の部分なので他の複数の誘導品にも影響を及ぼしていると思います。4Qに発生するこの影響について、誘導品も含めて影響は軽微ということでしょうか。

A：ご質問の地震の影響について、現時点では売上高では一定程度の影響を、また利益についても補修費用などもございますので同じく一定程度の影響を見込んでおります。停止時に遠隔地の他のベンダーから購入したお客様からは、早く日産化学が復旧してほしいという声も頂いております。影響を最小限にすべく努力しているところでございます。

Q：分かりました。これは休止費用という形で特別損失を計上する可能性がありますか。

A：それは多分ないと思います。売上高から営業利益までに入ってくると思います。

Q：2月7日からのアンモニアの製造再開というのは、まだ正常化はしていないが、取りあえず動きましたという感じですか。

A：既に正常化しております、その下流の誘導品についても生産をスタートしているところがございます。また、地震以外にも4Qの見通しという意味では、テピックや環境化学品も、安価な中国品の影響は引き続き出ていますので、注視していく必要があると考えています。

<質問者 3>

Q：まず1問目は、農薬に関して、27ページに主要製品の上ぶれ下ぶれなどを載せていますが、3Qの市場環境を国内と海外のそれぞれでどのような状況だったのか、あらためて御社の見解を教えてくださいいただけますか。

A：3Qの国内、海外の事業環境については、2Qと同様にやはり天候影響等々で、見込んでいた地域や製品で販売が伸びなかったという状況でございます。

国内に関しましても、3Qというのは比較的に物の動きが少ない時期ではございますが、前年対比ではかなりマイナスということが言えると思います。

Q：3Qについては、ラウンドアップとグレーシアの出荷が後ろ倒しになっていて、一方でタルガが前倒しになっていて、ネットで見ますと、総じてこの出荷のタイミングというのはこの3Qにマイナス方向に効いたのかプラス方向に効いたのかという点を確認させてください。

A：ネットすると出荷の後ろ倒しが大きく、マイナス方向に効きました。

Q：わかりました。4Qの市場環境について、今のご感触について教えてくださいいただけますでしょうか。

A：4Qの事業環境としましては、まず国内は4Qが最も国内農薬が動く時期でございます。順調に1月は出荷が進んでおりまして、国内に関しては、恐らく計画どおりに進むだろうという見込みを持ってございます。

海外に関しましても、グレーシアを中心に、例えばベトナムで12月に登録が取れまして、1月から出荷等がございますので、4Qの販売は計画どおり行くだろうという認識でございます。

Q：なるほど。海外の需要環境につきましては、2Qでは欧州での天候要因で、ジャガイモ関係でライメイが低迷したというお話がありましたが、一方で今回3Qのご説明ですとグレーシアでインド向けの天候不良ということなので、特にインドでの天候要因が足を引っ張ったということでしょうか。

A: そうです。インドは長らく干ばつが続きまして、虫の発生が少なかったと聞いておりますので、大きく影響を受けたと見ております。

Q: なるほど。そちらは4Qに向けては改善しそうですか。またその天候の影響で過度に流通在庫がたまっているということはありませんか。

A: 天候の話ですので読めない部分はありますが、ただ4Qは需要期ではなく、出荷が始まる時期でございますので、計画通りに出したいと考えています。流通在庫については現在割と厚めの在庫があるという認識ですが、市場全体の需要が拡大するとみていますので、それも含めて当社販売は計画通りとみております。

Q: 分かりました。2問目は動物用医薬品フルララネルに関してですが、3Q実績は上ぶれており、川下メルクの決算を見ても2割近い増収率と、かなり堅調に推移しているように見えます。説明会資料には前倒しで上ぶれという記述もないので、4Qもこのまま行けば上ぶれそうなのかコメントいただけますか。加えて、特許延長に関して、もしアップデートがございましたらお願いします。

A: ご指摘のとおり、メルク社での末端の売上も開示されておりますので、その線に沿った形で、もしかすると少し上ぶれがあるかもしれませんが、まだ2月上旬ですので、確定的なことは申し上げられないと思っています。

それから、米国の特許延長に関して、これは特にアップデートはございません。

<質問者 4>

Q: 1点目は半導体材料に関しまして、今回、2Qから3Qで伸びたと思うのですけれども、その中で地域別にどこが強かったかなどコメントを頂けますでしょうか。

A: 地域別というよりは、メモリの回復、特にDRAMの寄与が得られたといったように分析しております。

Q: ありがとうございます。2点目はディスプレイ材料に関しまして、光IPSのうち、昨年実績ではタブレットとノートPC向けの売上高が4割ぐらいを占めているのかなと思うのですけれども、今後、ハイエンドのタブレットやノートPCがOLED化されていくと思います。OLEDになりますと、配向膜が使われなくなると思いますので、この影響について整理していただけますか。

それから、パネルメーカーの稼働状況に関して、他の材料メーカーからは稼働率が持ち直していると聞いたのですが、その辺りは御社から見ていかがでしょうか。

A：一つ目の質問に関しまして、一部のタブレット等で OLED の採用が 2024 年から増えるというのは、前々から言われていることとして、当社からすると OLED の比率は多少増えますけども、全体としてはかなり限定的な範囲だと考えています。液晶の中で光 IPS への転換がまだまだ進むと思っていますし、そういう意味では売上としては引き続き着実な成長が見込めると考えています。

二つ目の質問のパネルメーカーの稼働状況に関しては、この 4Q、特にこの春節に入った 2 月中旬というのは、いくつかの中国のテレビパネルを生産している工場が意図的に稼働を落としていると把握しております。これが終わった後に 3 月以降、稼働を戻していくであろうというような情報も得ておりますので、それも含めて計画を立ててございます。

<質問者 5>

Q：株主還元について教えてください。今年度の総還元性向予想として 85%と資料に記載がありました。去年の実績が 78%で、中計目標が 75%だったところに対し、結構上ぶれてきています。今後の株主還元について、総還元性向でどの辺りの水準となるのか。75%よりも明らかにもう目線が上がったという理解でいいのか、教えてください。

A：おっしゃるとおり、最近は少しずつ切り上がっていますが、基本的にはこの中計期間中は 75%というのがベースだということは変わっておりませんので、現時点でそれを意図的にこれから切り上げて、ベクトルとして上に持っていくというつもりはありません。

2025 年の 5 月頃に次の中計のロールアップをした上で、また開示すると思えますけども、現時点では 75%という線は変えていないとご理解いただければと思います。

Q：これは単年度での 75%であって、累計の 75%といたしますか、要するには今年度 85%なので来年度 75%よりも下げてしまうとか、そういうこともないですね。

A：それもないです。

<質問者 6>

Q：二つお願いいたします。まず半導体材料のところですが、先ほど DRAM 向けの出荷が回復しているというご説明があったのですが、これは ARC の話と理解して良いのでしょうか。10-12 月で DRAM 向けが戻ってきているという話はあまり他社では聞いていないので、もう少し詳しく背景を教えてください。

A： DRAM に関しましては、全体の総数ではまだ稼働はそこまで上がってきていないですけども、先端のほうで稼働が上がっています。現在、EUV 材料を使う DRAM の量産がどんどん進んでいまして、ウェハの投入枚数も増えていますので、EUV 中心とした恩恵が受けられたといったところでございます。

Q： 分かりました。ありがとうございます。二つ目が農業化学品について、天候不順や御社の在庫増など、今回、説明の中で不安になるようなキーワードが多かった印象です。これは実態としては競合品が出てきていて御社のシェアが落ちているなど、そういった競争環境の変化はないと考えてよいのか、確認させてもらえますか。

A： 当社在庫、特に農業化学品の在庫が増加している要因につきましては、競合品に押されて、シェアを落として出荷が滞っておるというところではないと考えております。

在庫増加の要因は様々あるのですが、代表的な要因として、まずグレーシアが挙げられます。グレーシアの在庫は前期と比べてかなり増えているのですが、こちらはインドの NBR で昨年 12 月から製造が開始されています。それに伴い NBR でつくったグレーシアの原体、あるいはそれに付随する原材料の在庫が大きくなったということが一番大きな要因でございます。

また、ライメイに関しましても先にご説明しましたとおり、欧州の流通在庫の影響で出荷が滞りましたが、これは競合剤に押されてではなく、天候影響で馬鈴薯の疫病の発生が非常に少なかったという要因でございます。

最後に、原材料全般に関しまして、原料調達が多様化を念頭に、調達が難しい原材料の確保を 1 年間かけて実施していました。これによって在庫は増加しましたが、3 月末に向けては一定程度の減少が見込まれますし、来期にかけて順次在庫の整理ができると考えております。

以上